





イケケン先生の『恐縮ですが…一言コラム』

第 521 回 シックスポケットで「ハーフバースデー」

2013.4.21

久々に娘が孫を連れて、東京から熊谷の実家に帰ってきた。ママの所用が重なり、1 週間の滞在だと聞いている。もっというてもいい…と思うのはおじいちゃんの勝手である。

「ハーフバースデー (A half-birthday)」ということで、早速、大手赤ちゃん専門ショップへ…実はベビー専門店なる業態、小生初めてのお買い物で、ワクワクしながら出かけて行った。

おしめから肌着、離乳食、絵本やベビーカーまで、妊婦から赤ちゃんに関しては何でもある豊富な品揃えに驚いた。そしてその値段である。衣料品は、お父さん御用達のユニクロ  より高い。ジーユー  なら 5~6 着買えそうな価格帯で、平気に陳列されている。

「シックス・ポケット現象」とは、以前から知っていたし、このコラムにも書いた。

両親、祖父母4人の合計6人の財布のことで、少子化で、1人の子供に多くのお金をかけられるようになったことや、若いころにアイビー・ルックなどを体験し、流行やファッションに関心の高い「団塊の世代」が祖父母の世代になったことが背景にある、消費動向の事である。

高齢社会で元気なお年寄り、曾祖父母も沢山いる。また最近では、男女とも平均初婚年齢が上がり、金銭的に余裕のある独身者が増えていることから、叔父や叔母も含めた「エイト・ポケット」「テン・ポケット」といった言い方も登場している。

博報堂『ポケット！』弘文堂 2007 年)の調査によると、シックス・ポケットといわれていた子どものポケット数は、実際にはもう少し多く、平均で7つという結果だ。

ポケット金額は、合計して「年間約 43 万円の支出」、年間約 120 回のプレゼント。ポケットの中で頻度と支出額が高いのは、「ママのおばあちゃんポケット(母方の祖母)」。祖父母は「大甘ポケット」。両親は「辛口ポケット」…というような状況であった。

高額な衣料品だけでなく、子供マーケットの大フィールド、高額化する教育市場の背景には、両親を援助、支援する祖父母の存在は欠かせない。その最たる好例の「教育資金の一括贈与にかかる贈与税の非課税措置」が平成25年4月1日からスタートした。これは、30歳未満の者の教育資金について、親や祖父母が金銭により金融機関に信託等をした場合、1人当りにつき 1,500 万円(学校以外に支払われる場合は500万円)までの贈与が非課税となる特例で、平成27年12月31日までの限定措置である。今回の教育資金贈与の大きな特徴は、1年で1,500万円を使い切る必要はないということだ。金融機関に1,500万円を預けておき、子供が30歳になるまでに教育資金として使い切れれば、贈与税は非課税となる。つまり、子供の年齢が15歳であれば15年かけて使い切れれば非課税になるということである。

少子化トレンドが続く中、子供を取り巻く市場では、一見マーケットが縮小し、斜陽化が避けられない様に思われるが、ある部分ではむしろ拡大していると言う。まだまだ、新たな消費スタイルの創造が予測される。